倉二だより

学校だより　冬休み前号
令和7年12月23日
舞鶴市立倉梯第二小学校

夢を叶えるための原動力　－　心のスイッチ　－

本日、2学期の終業式を行いました。2学期には運動会・校内マラソン大会・人権旬間等、様々な行事や取組がありました。その中で子どもたちは、一人一人のよさを発揮し、達成感・成就感を味わい、一回り大きく成長しました。この間、保護者や地域の皆様にいただきましたご理解・ご支援に心より感謝申しあげます。

さて、終業式で子どもたちに「心のスイッチ」の話をしました。右の詩は、戦後の日本教育に多大な影響を与えた教育者　東井義雄さんが書き残された作品です。

「心のスイッチ」東井　義雄
人間の目は ふしぎな目
見ようという心がなかったら 見ていても見えない
人間の耳はふしぎな耳
聞こうという心がなかったら 聞いていても聞こえない
頭もそうだ
はじめから よい頭わるい頭の区別があるのではないようだ
「よし、やるぞ！」と心のスイッチが入ると
頭も素晴らしいはたらきをしはじめる
心のスイッチが人間をつまらなくもし すばらしくもしていく
電灯のスイッチが家の中を明るくし 暗くもするように

東井さんの言うように心のスイッチを入れることができれば、とても素敵なことですが、どうすればその見えない「スイッチ」を入れることができるのでしょうか。

ドラマ「下町ロケット」のモデルと言われる植松電機社長　植松努さんの言葉に、大切なヒントを見出すことができるのではないか、と私は考えています。以下は植松さんが中学生だったときの先生とのやり取りを振り返られたエピソードです。

その先生は、”どーせ無理”という言葉をよく使っていました。この”どーせ無理”という言葉がおそろしい言葉なんだなと思いました。これは人間の自信と可能性を奪ってしまう最悪の言葉です。でも、とっても簡単な言葉なのです。これを唱えるだけで、何もしなくて済んでしまうからとっても楽チンになれるおそろしい言葉でもあるんです。

だからこそ、植松さんは『「どーせ無理」に負けない「だったらこうしてみたら？」の人を増やしたい』とおっしゃいます。

「だったらこうしてみたら？」は、夢を叶えるための原動力となる言葉
「どーせ無理」は、夢をあきらめることを助長する言葉

言葉は単なるコミュニケーションの手段ではありません。「よし、やるぞ!」と心のスイッチを入れるのは、実は言葉ではないか?と思ってしまうほど、人の心に強く、深く響く力を持っています。だからこそ私たち教職員を含め、子どもたちには、誰かを楽しませたり、励ましたり、勇気づけたり、延いては夢を叶えるための原動力を与えたりする言葉の使い手になってほしいと切に願います。

明日からは冬休み。年末年始は、伝統的な行事やお正月を迎える準備などがあり、先人の知恵や人との関わり方が学べる貴重な期間です。ぜひ、家族で大掃除など、よい体験をしてください。そして、1月8日の始業式には全員が笑顔で元気に登校できますよう、保護者、地域の皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。どうぞよい年をお迎えください。

校　長　　伊藤　茂
教　職　員　一　同

ホームページにも、子どもたちの日々の活動の様子等を随時配信しています。右のQRコードからぜひご覧ください。